

刊夕 日十二月三



定価 一冊五錢 一月五拾五錢 三月一拾五拾五錢 半年二拾五拾五錢 一年四拾五拾五錢
 発行所 常新日報社 電話 六二〇〇
 印刷所 常新日報印刷部 電話 六二〇〇

追善法要の由来と心得 (一)

眞 繼 雲 山

【問】佛教では何宗にかぎらず、逝きし人のために年忌追善の供養をいとなみませんが、どういふわけで、何のために營むものでありますか。

【答】凡そ人たるものは他の動物とちがひ恩を知りてこれを思ひ浮べるといふ徳が無くてはなりません。これを追恩と申します。追恩を分ちて追恩、追孝、追慕、追愛、追敬、追慕、追悼といひます。

追恩とは、臣として永く君恩を忘れず、家來として主人の恩を忘れず、弟子として師長の恩を忘れず、こととをいひます。追孝とは子として父母の恩を忘れず、他の親族に對して永くその親睦を忘れないこと、追愛とは夫婦たりしものその愛を忘れないこと、追慕とは尊敬すべき人の恩を永く忘れないこと、追慕とは天下國家に功勞ある人の徳を永く慕ふこと、追悼とは水難、火難、劍難、賊難等の災厄に斃れた同胞を悼み弔ふこととあります。既に、さうした人々の恩を忘れず慕ひ悼むと云ふ以上、その

恩に報ゆるの行事が無くてはなりません。それが追善法要でありましてこの情は善なるもの、その善は眞であり、誠は天の道、天の道は人の道でありますから人間たるからにはこの人道を踏み行はねどなりませぬ。禽獸すら恩を知るものでありますれば、この追善法要を行はねばなりませぬ。

【問】その追善供養を修すれば如何やうな功德がございませうか。

【答】凡そ金にならぬば金輪際テコでも動かぬといふは人として愧づべき心事であります。丁度それと同じやうに追善佛事に功德の有無を計度することは無用の詮議であります。既に眞實至誠の行であるならば一切の分別を離れてたゞ一心にこれを爲せばよろしいわけでありませぬ。古歌にも
 妙へにして神ある
 ものは心かな
 天地にわたり微塵にも入る

ち渉るの道理にして亡者がたとひ如何やうの遠方に在りませうとも、その一念の通じない筈はなく一念感應すれば、亡者また遺族子孫を護念すること鏡の照らし合ふ如き關係でありますから至心至誠の追善法要こそは先亡を弔ふの道、延いては子孫繁榮の功德を招來すること露疑ひありませぬ。然れどもその法要の行事に誠あることなく世間の名聞や義理にかられて、生爪を削がすやうなケテ／＼した思ひで修する如くにては何等亡者のためにもならず、結局、時間と費用損に終るのでありませぬ。他人に施すを功と名づく自分に歸するを徳といひ、その自他圓滿するを功德といふのであります。その中心は一念喜愛の心にかゝるのでありますから佛事法要はこれに報ゆるの至誠をもつて行はねばなりませぬ。

二十八回生徒募集
 非常時の女性に促す
 婦人職業の近道に
 産婆看護婦を御選み下さい
 それには成績の最もよいと定評のある
 平南町 産婆看護婦学校へ
 △申込み成るべく早く
 △新學期の開始は四月八日より
 校長 清野キヨ子
 電話三〇七番

難 波 陸
 内科一般
 醫學博士 難波陸
 平町大町新川端
 電話五〇二

評判で香りのよい……
 電熱ほうじ茶發賣
 一號 一斤六〇 四半斤 一五
 二號 一斤四〇 四半斤 一〇
 童 謠
 大黒ばしらは家の王
 お勝 手道具は世帯王
 大勝園で買った茶は
 茶の間の王よ客間王
 父様母様おすきの茶
 客のほめる茶 喜ぶ茶
 平 三
 大勝園
 電三九六番

小店員數名募集
 年齢十五才ヨリ
 優遇
 御希望ノ方ハ午後一時
 ヨリ本人御來談下さい
 平町田町一七
 レストランサロン
 電話三五二番

新學期……
 裁縫用具と
 通學手提カバン
 澤山人荷致しました
 平 田 町
 各學校 御用達
 ハンモトヤ糸店
 電一四番

お正月催した鮎とカキ料理デーは多大の御引立に預り誠に厚く御禮申します。就きましては又々本日よりまぐろとカキ料理デーを初めましたから何卒以上の御引立の程御願致します。

さしみ山盛	御一	廿五錢	鮎すし	同	二十錢
鐵火卷	同	十五錢	かきなべ	同	廿五錢
鐵火井	同	二十錢	フカ	同	廿五錢
ねぎまなべ	同	二十錢	ライ	同	二十錢

平二巻寮 魚清食堂部
 電話六三三番

通學服と防水マント賣出し
 可愛らし御
 可取揃い
 豊に命を
 富に御用
 嬢富御用
 ちゃん通學
 やん通學
 坊ちな座
 お丈夫い座
 男 兒 用
 紺サージ金釦服……3.80ヨリ
 黒小倉服…….90ヨリ
 // 上口…….1.60ヨリ
 女 兒 用
 紺サージ制服…….3.60ヨリ
 紺セルセーラー服…….2.80ヨリ
 防水マント
 片ゴム…….1.20ヨリ
 中ゴム…….1.55ヨリ
 平 三
 ぶかや洋服店
 電話203

鎌田橋がモダン化

愈よ五、六月頃架替着工

位置も變更するらしい

此程實地測量

平町東部の關門—平町と神谷の境界夏井川に架る延長百米の鎌田橋は最近

自動車網の發達と、

もに交通激甚を極めつゝあるため破損甚しく加ふるに建設後數年を経るゝ腐朽してこのまゝ放置する時は交通上危険多きため平土木監督所では再三縣へ架換方陳情した結果縣でも夏井川改修の附帯工事として愈よ架換することに決定、十七日縣土木課

松浦技師が小林監督所長、高橋夏井川改修事務所長等の案内で實地測量した。架替の案内で實地測量した。架替の案内で實地測量した。架替の案内で實地測量した。

火薬類取扱の協議

平署が關係者を召集

平署では最近管内各地火薬爆發事故頻發するに鑑み、これが取扱上に遺憾なきを期するため四月一日午前十時から同署會議室に管内の各炭礦銃砲火薬製造業者並に取扱者約四十名を召集して協議會を開き種々協議することになつたが縣からは山崎保安課長その他數名臨席訓示する筈

中堅農民

修了氏名

石城郡農會主催第六回中堅農民養成講習會は去月十六日一ヶ月に亘つて平町團体事務所樓上で開かれ去る十六日修了したが明二十一日午前十時から平町團体事務所樓上で修得證書授與式を舉行する、修得者は左記七十名である

(泉)上遠田廣 鈴木六右衛門 小(儀次)渡邊 小

表彰された

煙草小賣人

水戸專賣局では昨日管内の優良煙草小賣人を表彰したが平出張所管内に屬せる受賞者左の如くである

産馬役員

一部を改選

石城郡産馬畜産組合では昨日十九日通常總會を開き昨日の協議事項を付議満場一致可決したが區長及び評議員の一部改選の結果は第四區長矢内半藏、第二區長永山久助の兩氏再選重任其他新評議員は左の如し

燈臺調査

同員數名來郡

東京燈臺局員數名は二十一日來郡、豊間一等燈臺、小名濱縣營燈臺を視察調査する

警女職員會議

警女では本日午後一時より同校會議室に於て三年生以下の素行査定會及び落判定會を開いた

訓言院へ寄附

平町織田豊太郎氏は昨日

城訓言院基本金に金二十圓寄付した

小島農事座談

内郷村小島農事實行組合では二十二日午後六時から農事座談會を開くが郡農會柴田技手の農事講演がある

木村科醫院

平町五丁目橋際 電話九〇三番

一冊の代金で御希望通りな

五冊の雜誌が自由に讀める

川崎文庫

(申込次第規則書進呈)

店約特プンラダツマ

平町	大谷時計店
同	大勝ラヂオ店
同	木村電機商會
同	古山ラヂオ店
同	日東商會
湯本町	白石瀨屋藥店
同	小名濱町
同	江名町
同	植田町
浪江町	柴田電氣商店
原町	松本城時計店

東京電流株式會社

今後御買求の際弊店指定持約店より直接御買求下さい

御融通には!

是非御利用を

萬事便利な御相談に應じます。

三井質店

平四・電六〇六番

小剣士勇躍し戦ふ

昨日第一校大會優勝者

既報平第一小學校劍道部では五年以上各學年より選り抜いた小剣士百五十餘名を以つて昨十九日午後一時より講堂に第一回校内劍道大會を催し水竹、井上兩訓導審判火花散る熱戦を演じ決勝戦では左記の如く五年八名、六年六名、高等科四名引合二名、計廿名が榮ある第一回優勝者として、それ賞状を授與されたが決勝戦成績左の如くである

長谷川利一 伊藤正光 ○
 平井省吾 田邊實 ○
 安藤破魔雄 松本光男 ○
 富田直彦 愛川守 ○
 青木肇 伊藤康夫 ○
 新妻濱男 鈴木一興 (六年)
 梶子重太郎 佐藤喜一 ○
 大倉一男 宗像謙一 ○
 上坂常磐 關子實之 ○
 大友正衛 袖山勝伯 ○
 小柳八三郎 後藤章 ○
 阿部泰造 松本三郎 (高等科)
 若松雅雄 中島利中 ○

(五年)保住正一 石川昌之 柏木徹一 小野勝之

優しい心に 役場が感激

皇軍を懐ふ少女達 慰問袋を調製

満洲事變前にはなる頃は平町でも慰問袋山なす盛況であつたが事變の終熄ととも慰問袋のイの字もきかれなくなつた處此程突如平第二小學校

高等科

一年の二組吉成貞子、廣澤好枝、野田鈴子、永山ミヨ子の少女達は各自さゝやかな小遣錢を持ち寄つて慰問袋を作製本日

平の櫻仕度

公園賣店を貸付

本年は保證金が入用

彼岸の訪づれとともにもこゝ二三日めつさり春らしい温暖の陽気に恵まれて「さくらバット咲く」時期も

間近くなつたので早くも平町では公園の手入れを行ふとにも松ヶ岡公園臨時賣店借地希望者の募集を開始したが

場所、土木委員會への諮問で大體前年通り左記十三ヶ所を貸付けることに決した

- 一號地(公園内指定の地)
- 六ヶ所、二號地二ヶ所、三號地四ヶ所、三號地乙

は此程陸軍省より發表されたが本郡下りの表彰家庭は左の如くである

- △銀盃(一家より七名)泉上遠野新重郎△木杯(一家より四名)飯野村田福太郎 加藤正守 村田陳郎 玉川永井春吉 遠藤憲吉丹野和助、江名作山庄司 赤井津田改藏 川部安島千治△表彰狀(一家より三名)豊間鈴木藤治郎 小名濱馬目長治

- 中野龜太郎 飯野山野邊鶴次郎 大橋鐵治 川前大平喜一 磐崎大井川十郎 國井藏太 玉川鈴木幸 勿來安島繁太郎 小野與一 蛭田卯之助 園部菊藏 小川草野長太郎 大野會田伊一 入遠野平子忠太郎

山林内

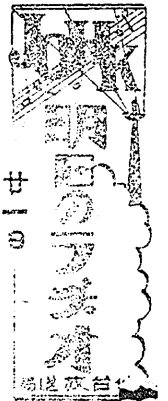
蓄音機備付

平營林署管内戸渡官行事業所には目下多数の入夫が就業して居るので蓄音機を購入し晝休みを利用して人里離れた山林内の従業員に聞かせ慰安する事になつた

五十嵐副院長の 博士論文が通過

博士論文が通過

平町共済病院副院長醫學士五十嵐雄二氏は過般慶應大學醫學部に提出審査中であつた博士論文が十九日同大學醫學部教授會をパスした旨同氏宛通知があつたので近く文部大臣から醫學博士の稱號を授與されることにな



天 今晩も明日も北西の風晴曇半す

家出青年

自殺を企つ

湯本町大平安安雄(三)は去る十七日無断家出し十八日青森發の青函連絡船に乗り沖合で投身せんとした所を發見され青森水上署で保護を加へて居ると

鑛毒問題の火の手

玉川村調査費千圓を計上

玉川村對入山炭礦の鑛毒問題は益々紛糾し兩者互に聲明書を發表して相譲らざる形であるが玉川村では昨十日午前十時から臨時村會を召集して鑛毒調査費として千圓の追加豫算を付議満場一致で可決今二十日午前八時湯本發の列車で野崎村長及び遠藤喜平、高萩儀平三陳情委員が出仙、鑛山監督局に調査員派遣方を陳情した

裁判所たより

△去る十七日平支部に於いて中島裁判長より懲役五年を言渡された好間村字上好間居住殺人未遂爆發物取締違反犯人寺門二郎(三)は昨日上訴權を放棄し服罪する事になつた

平第一送別會

一小學校では本日午後二時半より同校講堂に於いて本年度卒業生尋常科百八十八名、高等科八十八名、合計二百七十六名の送別會を開き受持教員の訓話及び生徒の餘興等があつた

平職業紹介所報告

△商店雜役 十八―三十五 人を求める方

- 明日の部
- 後八、〇〇 佛敎講座「隨喜稱名成法義三昧儀」第一講 駒澤大學々長文學博士 忽滑谷快天
- 前九、三〇 子供の時間 お話と歌謡國寺日曜學校生徒
- 前一〇、〇〇 講演「癌と早期診断」北大教授醫學博士 市川厚一
- 後〇、五〇 滿洲より
- 後一、二〇 新人の午後 一俚諺江差追分外數曲佐藤正松歌謡曲イ、娘心ロ、

- あの夜あの時ハ、雪よふれ、林あづま
- 後六、〇〇 子供の時間 國語讀本の讀方 たしかに保證 お話神保格朗讀東京高等師範學校附屬小學校兒童
- 後六、二五 英語講座
- 後七、三〇 管絃樂 大阪交響樂團
- 後八、〇〇 物語「濱千鳥」夏井靜枝
- 後八、三〇 ピアノ獨奏 一、奏鳴曲二、聽け聽け雲雀三、譚思曲
- 後八、五五 義太夫竹本仙才迄 無學にても可月十圓 十五圓
- △トラツク助手 十七才―二十五才 高卒 月八圓
- △自動車助手 十五才―十七才 高卒 仕着小遣七歳 高卒 二十才位 尋卒 給料面談
- △商店雜役 十七才―二十才 尋卒 初給五圓
- △商店雜役 二十才―三十才 尋卒 月十圓位
- △回職を求める方
- △事務員 二十六才 高卒
- △小使 二十六才 高卒
- △土工夫 二十九才 尋卒
- △店員 二十七才 高卒

鈴木醫院

外科 婦科 内科

平町 田町 電話 五八番

平町 田町 電話 五八番

銘劍秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴演
山本英春畫

第百八十五回

徳川家に崇る村正

神前に厄難を免る

十兩の禮と聞いて、白旗
丈助少し心が動いた

白「實は先生、手前品川に
少し馴染が出来まして、金
子が入用なところでござい
ますから、十兩下さると言
ふならやりませう、就ては
手金を、少々頂きたいもの
で」

五「宜ろしい、一兩遣はそ
う」

白「一兩と仰言らず半金頂
きたいもので」

五「いやそうはならぬ、確
かに殺したといふ證據を見
ない内に左様な大金はやれ
ん」

白「宜しうございます、ナ
ニ由松位殺つて終ふのは譯
はございません」

五「死體は成可く人目に附
かんやうにな」

白「畏りました、面の皮を
剥いてしまひます」

五「その邊は委せるから如
才なくやつてもらいたい」

約束をして白旗は一兩を
貰ひ、翌晩庭に隠れて由松
の様子を窺つてゐると、ソ
ツと部屋を脱げ出し、庭の
切戸口から表へ出て行つた
白旗も少し間を置いてその
切戸口から出て由松の

尾けて行くと、上澁谷の八
幡宮へ行つて頻りに祈願を
こめてゐる

白「宜し、此處で遣つて終
ふ、併し此頃メキ／＼腕が
出来てマゴ／＼すると反對
にやられるから油断は出来
ん、斯うと思つたら、あん



中に斬り込んで来た、真二
つと思ひきや、危い處でヒ
ラリと体を變し、バツと飛
退き、何者かと思つて見る
と黒装束に黒の覆面をした
奴だ

由「モン人違ひぢやござい
ませんか、私は七丁目の水
上の道場に居る由松と言ふ
者でございます」

と大聲で怒鳴りながら、
左右に逃げたが、尙もはげ
しく打込んで来る様子に、
由松扱てはと心付き

由「それぢや何です、私
を由松と知つて殺そうとす
るんだね、宜しそれぢや敵
はないまでも相手をしよう

つた、由松最初は相手を五
太夫と考へたが、その形に
よつて五太夫でないことが
判つてゐる、それでは誰だ
らう、本多か横澤か、さも
なく白旗だが、これは白
旗らしい、憎むべき水上五
太夫吾れを亡きものになさ
んがため門人に申付けて瞞
し討ちにしようと思つたな

武運拙くして瞞し討ちにな
るにしても白旗如きに討た
れては冥途に參つて母に逢
はせる顔がない、何卒して
この場を逃れやうと思つた
から、突然に

由「助けて呉れ」
と怒鳴つた、驚いたのは
白旗丈助、人にでも來られ
たら面倒だと思つて、焦つ
て斬り込んで參りましたが

由松も一生懸命二三薄傷は
負つたが更に屈せず斬り結
んでゐる處へ由松の聲を聞
きつけたと見えてバラ／＼
と馳けつけて來た一人の
武士、突然横合より躍り掛
つて白旗丈助の横面をボカ
リとなぐつた、アツと言つ
てヨロ／＼とよろめいたが

起き上つて右の武士へ斬り
付けたとたんに彼の武士ヒ
ラリ体を變して手許へ躍り
込むと、突然丈助の小手を
掴んでドンと投げ出した、
流石に丈助、武藝で鍛へた
身體だけに、投げ出されて
も酷腰を打つ様なことはな
かつたと見えて起上ると共
にドン／＼逃げ出した

○「コレ、若者怪我はない
か」
由松大きに喜び、大地に
両手を突いて

由「有難うございます、お
蔭様で危い處を助かりまし
た、二三ヶ所微傷は受けま
したが、大したことはござ
いませぬ」

○「左様か、それは宜かつ
た」
所へ其の武士の供と見え
て紺の法被を着た仲間が箱
提灯を提げてやつて來た

仲「旦那様どうなさいまし
た」
○「ウム曲者を取つて投げ
た、押へやうとしたが逃げ
足の早い奴逃げ去つてしま
つた」

仲「それは残念なことを致
しました、今一足手前が早
ければ」
○「強そふなことを言ふな
今止せせと、止めたくせ
に」

生徒募集

非常時日本と婦人の職業
近代の日本は婦人にも經濟の獨立を呼かけて參りまし
た。婦人の職業として産婆看護婦といふ業は最も似つ
かたしい天職であります。

卒業年限僅か一ケ年
開業すれば収益も多大で家政の内助ともなり、家庭の
人となつても直接役に立つのは此の産婆看護婦の業で
有ります。

戦争と日本婦人としての覺悟
一旦緩急あれば戦時看護婦として愛する母國への奉仕
に務めませう。

古く傳説の歴史と縣下第一の好成绩を誇る平町一丁目
の石城産科看護婦學校へ御入學下さい。

石城産科看護婦學校

校長 鷹崎千代

皆様にヒビヤシモヤケでお困りになりませんか、
熱い火や湯でヤケドなされた時でも直ぐツケますれ
ばヒブクレにならずに済みます

キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料
で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さ
い。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキ
レイに治ります。

キリ印 ヤケド キリキズ
クサ はだのアレ
太乙膏 シモヤケ たじれ 専賣店

平町古銀治町一〇

阿康藥舖

電話四四番

耳鼻咽喉科専門

氣管食道科

平南町

大和田醫院

(電話一七〇番)

花柳病科 小兒科 内科
藤沼醫院
町番七〇 屋敷五 紺屋五
町電話 平電
入院應需

市原醫院

平町田町
電話一四番